

2018年度入学試験（推薦入試A日程・11月11日）【50分】
作文試験問題

学芸学部・子ども教育学科

課題・意見文を書く

問題

保護者が家事を行ったり、交通機関や公共設備を利用したりする際、小さい子どもを落ち着かせるためにスマートフォンなどの端末を使う「スマホ育児」が話題となっています。

この問題に関し、子どもがそちらに集中することで家事や育児の助けになり、保護者にも余裕ができて良いという考えと、機械任せにしてしまうのは子どもへの発達にとっても良くない、という考え方があります。

あなたは、どちらの考え方を支持しますか。発想材料を参考に、あなた自身の知識や経験などを材料に用いて、どちらの考え方を支持するか、立場を明らかにして意見文を書きなさい。（文の中で「スマートフォン」を「スマホ」と略記して結構です。）

なお、意見文は次の条件に従って書きなさい。

条件

- ① 文章は、必ず「事実」、「意見」、「意見の理由（証明）」の順に、三段落構成で書く。
- ② 本文は縦書きで、必ず一行25字のマス目に16行以上、28行以内で書くこと。句読点も一字として数える。
- ③ 最後に、あなたが書いた文章の要旨を三行（75字）以内で書く。

発想材料

- ・スマホは簡単なボタン操作だけで音楽が流れたり画像が見られたりする。子どもが早期にこうした端末に親しむのは将来の生活にとっても良いだけでなく、絵本や図鑑等のかわりにもなり、教育上好ましい。
- ・保護者との実際的な言葉のやりとりが不足することで、言葉の発達が遅れる危険がある。
- ・交通機関や公共の場で赤ちゃんがぐずったり幼児が騒いだりしても、スマホの画面を見ることで落ち着くため、周りへの迷惑も防げる。
- ・就寝前にスマホの画面を見ることで睡眠が妨げられることがわかっている。熟睡中に成長ホルモンが分泌される子どもにとって、体の成長にも影響があると考えられる。
- ・スマホを子どもに渡したり、乳児の寝かしつけに使ったりすれば、保護者が家事の手を途中で止めなくてすむ。
- ・特に乳児期には保護者との触れ合いがないと、愛情を感じ取る事ができなくなったり感情表現がうまくできなくなったりする恐れがある。

2018年度入学試験（推薦入試B日程・12月3日）【50分】

作文試験問題

学芸学部・子ども教育学科

課題・意見文を書く

問題

「夏休みの終わりに、上野動物園が「学校に行きたくないと思いついて、皆さんへ」として「もし逃げ場所がなければ動物園にいらっしやい」と呼びかけました。これについて、「追い詰められて逃げ場を失っている子どもには学校外に行き場を設けることも大切だ。」という考え方と、「子どもの社会的自立のために学校に通えるように手立てを取るべきだ。」という考え方があります。あなたは、どちらの考え方を支持しますか。

発想材料を参考に、あなた自身の経験などを材料に用いて意見文を書きなさい。

なお、意見文は次の条件に従って書きなさい。

条件

- ① 文章は、必ず「事実」、「意見」、「意見の理由（証明）」の順に、三段落構成で書く。
- ② 本文は縦書きで、必ず一行25字のマス目に16行以上、28行以内で書くこと。句読点も一字として数える。
- ③ 最後に、あなたが書いた文章の要旨を三行（75字）以内で書く。

発想材料

- ・ 追い詰められて大切な未来を絶ってしまふことが多く起きているので子どもには逃げ場が必要だ。
- ・ 生きて行くには苦難と闘うことも大切なので安易に逃げ場を与えてしまうのはよくない。
- ・ 我慢も大切。努力も大事。しかしそれらは美德ではない。辛いときは逃げてまた戻ればいい。
- ・ 子どもにとって心を癒やすべき場所は家庭である。その他に逃げ場を設けるのは適当ではない。
- ・ 学校で誰もが同じ価値に向けて過ごす必要はない。いろいろな生き方に出会うのは大切である。
- ・ 逃げ場所に逃げたからといって、子どもの成長にとって何の援助を受けられるわけではない。